

公募制推薦入学試験 小論文 講評

【出題のねらい】

2つのねらいをもって問いました。設問1は、課題文を読み解くなかで、筆者がどういうふうに考えを組み立てているかを把握することです。下線部を手がかりにして、文章中の言葉を引用して内容を要約することを求めました。設問2は、筆者の考えにふれて自分自身に起こった思考を記述することです。相手の考えに対して賛成／反対をはっきりと言える場合もありますが、言えない場合もあります。どっちつかずでもそれが自分の思考です。話題を他人事とせず、共有して、身近な出来事や経験に結びつけて考えて記述することを求めました。

【受験生へのアドバイス】

思考の言葉は、〈読む〉と〈書く〉の間に起こる〈内言語〉と言えます。〈聞く・聴く〉と〈話す〉の間に起こる〈独語〉から発展する言葉です。自分の考えを記述するとき、まず、筆者と対話するつもりになってみましょう。相手の思考の言葉にふれて起こる共感をベースにして、自分も思考の言葉を組み立てて、対話に参加するのです。共感、同感に限らず、分からないと感じるズレも含んで、相手への問いかけを生み出します。共感に起こる思考の変化に目を向けて、互いに分かり合えるように、思考の言葉を共に創る過程が、小論文の記述になっていきます。